

萱瀬☆物語

大村市立萱瀬小学校

学校だより 第22号

令和5年2月9日発行 校長 高以良康弘

「やさしく」「かしこく」「たくましく」

学校給食週間

～給食に感謝！～

給食に携わるいろいろな人の苦勞を知り、感謝の気持ちを表すとともに、食べ物を大切にしようとする心を育てる。また、毎日の食事が健康に過ごすために大切なこと・今の食事が将来の自分自身の身体を作っていることを知り、好き嫌いをせず食べようとする態度を育てること等を目的として、1月24日～1月30日の期間を給食週間としています。



【栄養教諭による食育指導】

本校でもこの週間に合わせ、以下のような取組を行いました。

- ①給食集会（給食委員会による給食クイズ）
- ②標語紹介
- ③栄養教諭 校内放送講話（雪のため担当の加藤先生代読）
- ④食育指導（山本栄養教諭）

食育指導では、小学校給食センターで働く人（調理員さんやトラックの運転手さん）のことや仕事内容等、毎日時間に遅れないように市内小学校約7000食もの給食（中学校分は、中学校給食センターで別に調理）を作ってくださっていることを学び驚いていました。

ご家庭でも、身体を作り健康を守る源である「食事の大切さ」について、お話しいただければと思います。

中学校制服巡回展(児童・職員対象) 1月23日～24日

令和6年度中1生（現5年生）から、市内全中学校の制服が変わる予定ですが、その制服の巡回展が本校にも来て、本校児童や職員も見ることがありました。4種類ありましたが、第一印象は、どの制服もおしゃれで着やすそうか感じでした。子どもたちの感想は、お子さんにお聞きください。（保護者対象の巡回展は別途案内があったと思いますので、直接見てお確かめください。）



【A】

【B】

【C】

【D】

認知症サポーター養成講座(4年)



1月26日に福祉学習の一環として、4年生を対象とした認知症サポーター養成講座を行いました。この講座では、地域包括センターの方が「高齢者について」「認知症について」「認知症の人への接し方・注意事項等」「認知症サポーターとは何か」について、分かりやすく説明してくださいました。

租税教室(6年)



1月27日に社会科学習の一環で、6年生を対象に標記学習を行いました。「税なかったら世の中はどうか」を、児童に自ら考えさせることを通して、税金の必要性・大切さを理解するために行われました。



6年生の子どもたちも普段あまり意識していない税金の必要性を学び、札束の見本を持つなどして興味を持って学習に参加していました。

子供のがんばいを紹介します

「大村市子ども美術展」

書の部 優良賞 2年 女子児童
佳作 2年 男子児童

校長室の窓から

「いまここじぶん その合計がじぶんの一生」

この言葉は、相田みつをさんの言葉です。「これまで、自分がしてきたことの積み重ねが、今、ここにいる自分をつくっています。だからこそ、これまで上手くいったことも、いかなかったこともすべてに価値があり、無駄なことなど一つもありません。」という意味です。

いよいよ今年度も残すところ1か月と少しになりました。この1年間を振り返って、学校や家庭で、上手くいったこと、いかなかったこと、嬉しかったこと、悲しかったことなど様々なことがあったと思います。それらのすべてのことがあったからこそ、今、ここに自分がいるのです。そして、今、ここにいる自分がしていることが、来年の自分をつくっていきます。